

留学先	台湾・国立台湾大学
プログラム名	+C1 Chinese Language and Culture Program
留学期間	2019年8月5日～8月31日
専攻	B類社会専攻

国立台湾大学へ

私は 2019 年の夏に国立台湾大学の短期研修プログラム“+C1 Chinese Language and Culture Program”に参加しました。プログラムは中国語（繁体字）の学習が主な内容ですが、台湾の文化に関する講義や Culture Tour も含まれています。

私は日本近現代史について学ぶ中で台湾に興味を持ち、台湾の歴史や文化、さらに日本との関係についての見聞を深めたいと考えていました。日本語訳されていない資料／史料がある程度理解するためにも中国語を学ぶ必要性を感じ、中国語および台湾の文化について学ぶことのできる本プログラムへの参加を決めました。

大学生活について

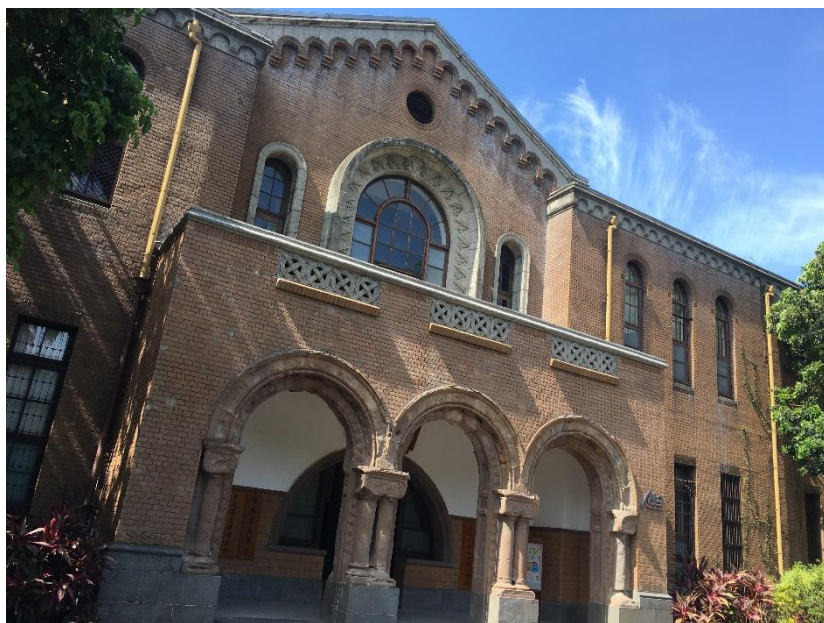
中国語の授業は週 4 回ペースで行われました。1 クラスあたり（今回は）5 人でした。授業は台湾で使われる繁体字や台湾華語の文法で進められますが、授業やテストにおいて簡体字で書いても問題ありません。繁体字で学んだことがないからといって不利になることはないと思います（むしろ大陸との違いなどを考えるいい契機になると思います）。担当講師の丁寧な指導、そしてその前後の予習や復習により深い学習を行うことができました。プログラムの最終日にはグループプレゼンテーションを行い、成果を確認・共有できました。

これに加えて“Exploring Taiwan”という台湾の文化を学ぶ講義を受講しました。台湾大学の専門の異なる 4 人の教授によるオムニバス形式での講義、さらに北東部の宜蘭や台北市内の史跡への Culture Tour によって台湾の文化・歴史に対する理解を深めることができました。この講義や Culture Tour は英語で進みます。またプログラムの終盤には講義に関するレポート（中国語／英語を選択可）が課されます。プログラム参加前には中国語だけでなく英語の学習を進めておいた方がよいと思います。また台湾の文化について関心をもって自分なりに考えをもっておく授業の理解の助けにもなりますしレポートも深みのあるものになると思います。

私が参加した中国語の学習プログラムの参加者のうち半数以上は日本の大学に通う学生でした。しかし“Exploring Taiwan”は異なるプログラム（アジア文化、芸術など）の参加者も受講するため、各プログラムの枠を超え多様な背景を持った学生と台湾の文化について議論することができたのは大変に貴重な経験でした。

今回のプログラムに参加した学生には台湾大学の学生証が付与され（日本でいう Suica と学生証が一緒になったようなもので、とても便利です）、図書館などの施設を自由に利用することができました。レポートの作成や自身の研究に役立てるための資料／史料にアクセ

スするために何度か台湾大学図書館へ足を運びました。日本語の文献も数多く所蔵されているので参加される方はぜひ行ってみるといいと思います。



台湾大学の校史館。日本統治時代の 1928 年から現在までの台湾大学の歴史について展示されている。ちょうど五・四運動から 100 周年であったことから「五・四運動と台湾」という企画展示も行われておりとても興味深かった。内部には書店もあり、中国語はもちろん日本語の学術本も販売されている。

大学以外での生活

約 1 か月にわたって単身海外で生活するのは初めての経験であったためかなり不安でした。しかし、海外短期研修の経験がある先輩方や後輩、そして台湾大学の学生 SA からアドバイスを得た結果、特にトラブルなく終えることができました。プログラムの期間中、強い勢力の台風が 2 度訪れたものの、大学や SA のサポートにより問題なく寮で過ごすことができました。

台湾大学の学生 SA は、中国語はもちろん英語も堪能なため、さまざまな場面で頼ることができて心強かったです。休日にはプログラムの参加者を遊びに連れて行ってくれたりするなどとてもフレンドリーでした。

台湾では基本的に食事は外で食べるという文化が根付いていて、短期研修の期間中は台湾大学の学食か寮の近くのレストランで食事をする機会がほとんどでした。これを利用して、学生 SA やプログラムの参加者とコミュニケーションをとることができ、多くの学生と意見を交わす貴重な経験となりました。台湾のご飯はとてもおいしいのでいろいろ食べてみるといいと思います。



台北の繁華街・西門町。MRT 西門駅を出てすぐなのだが、駅の出口を登った先に見えた風景が日本の渋谷・センター街のそれであった。不思議な感覚を味わいつつ買い物を楽しんだ。

プログラムで得たこと

今回のプログラムで、中国語の学習を大きく進めることができたのはもちろん、自身の関心がある台湾の文化や歴史について深く考えることができたうえ、英会話のスキルも大きく伸ばすことができ、さらに日本国内外を問わず多様な考え方や背景を持った学生と（台湾についてだけではない）あらゆる話題について意見を交わすことができました。これまでの東京学芸大学での学びにプラスして自らの価値観や視点を広げる大きな助けとなり、大変に有意義な1か月間でした。台湾に関心のある方はぜひ参加すると思います。